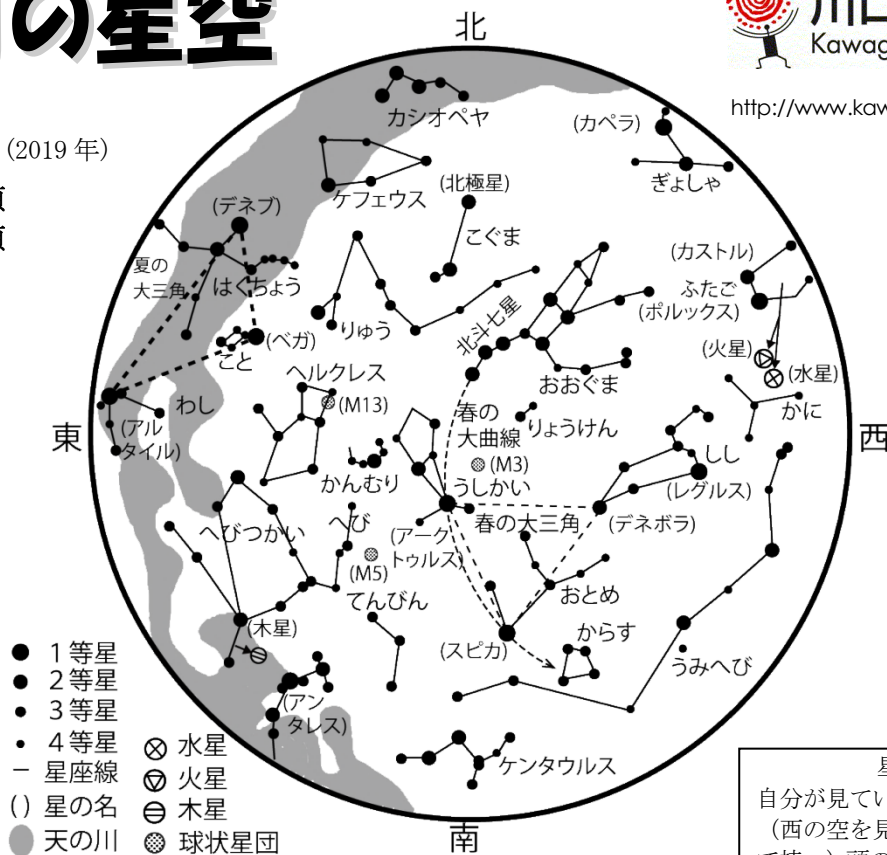


今月の星空

6月 (2019年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 3 日、● 上弦 10 日、○ 満月 17 日、● 下弦 25 日

惑星情報

水星 夜のはじめ頃 北西(おうし→ふたご→かに -1→1等級)
金星 明け方 東(おひつじ→おうし -4等級) 火星 夜のはじめ頃 西(ふたご→かに 2等級)
木星 夜のはじめ頃 南東(へびつかい -3等級) 土星 夜遅く 南東(いて 0等級)

☆木星の観望シーズン到来

南東の低い空にはさそり座の1等星アンタレスとともに木星が昇ってきました。木星は11日に「衝(しょう)」となります。衝とは、右図のように、地球から見て木星が太陽と正反対(180°)にあるときで、

- ①木星との距離が近い(明るくて、大きく見える)
 - ②一晩中観察できる(日の入りと共に昇り、日の出と共に沈む)
- という点で観望好機と言えます。

衝以降は、9月6日の東矩(とうく)頃までが見ごろと言えます。この時期になると、木星の沈む時刻が早くなっていきます(下表参照)。

ちなみに、これら惑星現象を月の満ち欠けに対応させると、衝=満月、東矩=上弦の関係となります。

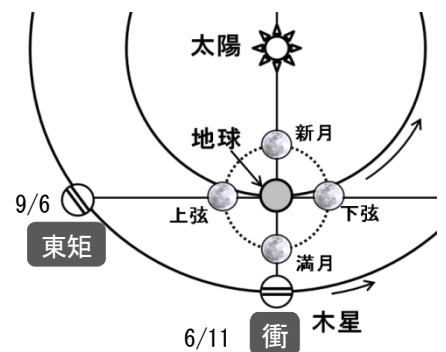


図 太陽-地球-木星の関係

表 衝・東矩における木星の諸データ (川口市)

日付	木星の出(日の入り)	南中	木星の入(日の出)	視直径(秒角)	明るさ(等級)
6/11【衝】	18:43(18:57)	23:36	翌 4:30(翌 4:24)	46	-2.6
9/6【東矩】	12:44(18:03)	17:38	22:32(翌 5:17)	38.3	-2.2

☆春・夏の星座にひそむ球状星団

夜空を見上げて星座を見つけた後は、双眼鏡や望遠鏡を使って、天体観測を楽しんでみましょう。特に星団は、市街地でも観察できるおすすめの天体です。星団には、不規則に星が集まった散開星団(例すばる)と「M13(ヘルクレス座)」に代表される球状星団があります。後者は、星同士が互いの重力で球形に集まった天体で、その特徴は恒星数の多さと距離の遠さです。典型的なもので、恒星数は数十万個、距離は2万~5万光年程度です。また、球状星団は見かけの大きさが小さいため、星が細かく群れる様子を観察するためには、科学館などにある口径の大きな望遠鏡がおすすめです。この時期は、M13の他にも、M3やM5などが見られます。22日(土)の夜間観測会では、主に球状星団を観測します。